

第2章 たつの市の概況と環境の現況

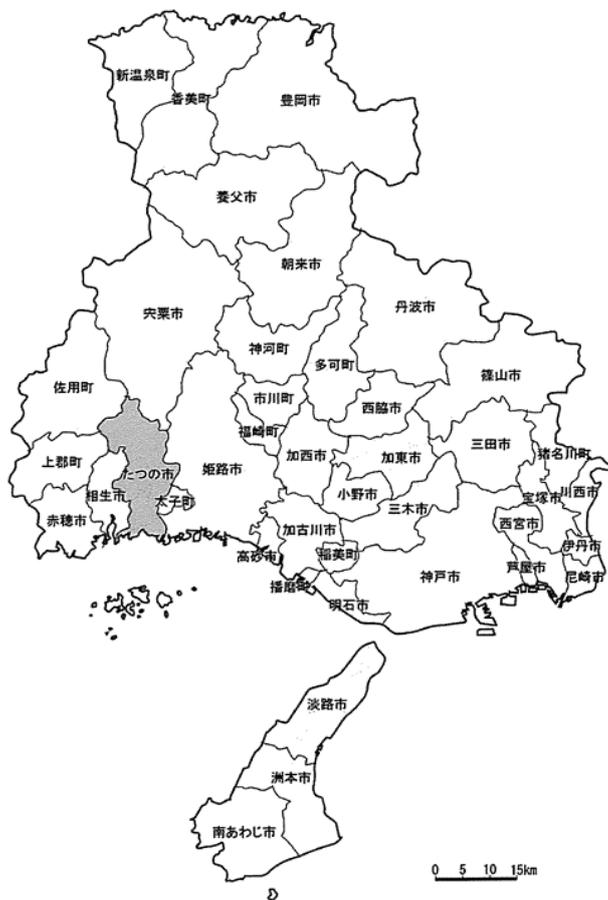
1 たつの市の概況

(1) 位置・地勢

本市は、兵庫県南西部の西播磨地域に位置し、南が瀬戸内海に面し、東は姫路市、太子町に、北は宍粟市に、西は相生市、佐用町、上郡町に接しています。市域は、東西約15.7km、南北約29.8kmと南北に長い形状で、約210.87km²の面積を有しています。

市域を南北に流れる一級河川揖保川は、北側に広がる緑豊かな山地から播磨灘まで流れ、本市の豊かな自然環境の象徴となっています。

海岸域は瀬戸内海国立公園に、丘陵部の一部は西播丘陵県立自然公園に指定されるなど、豊かな自然環境を有しています。一方で、市域の北西部には、本市、上郡町及び佐用町による播磨科学公園都市が形成され、自然と先端科学技術を備えた国際的な都市づくりが進められています。



本市の位置

(2) 歴史・沿革

本市は、古くから山陽道、美作道、筑紫大道、因幡街道の往来、揖保川の水運、瀬戸内海に面する播磨随一といわれた室津港の海運など、交通の要衝として発展し、豊かな文化が生まれ、その伝統が今に伝えられています。

特に、西播磨を代表する弥生時代の集落遺跡である新宮宮内遺跡は国指定史跡となっており、また、脇坂龍野藩5万3千石の古い町並みが残る龍野城下町は、18世紀中期頃から戦前までの町家や醤油関係施設などの伝統的建造物が数多く残っていることから、商家町、醸造町として、国の重要伝統的建造物群保存地区*に選定されています。

また、国の重要文化財に指定されている永富家住宅は、龍野藩屈指の豪農の生活を今に伝えるとともに、播磨における庄屋住宅の最も発達した形態を今にみることができます。

さらに、市南部の室津は、港町として1300年の歴史があり、海と陸の結節点、宿場町として栄え、北前船寄港地、船主集落として日本遺産に認定されています。

このような歴史の中で、清流揖保川などの豊かな自然を共有し、産業、経済、文化等の強い結びつきを持って発展してきた旧龍野市、旧新宮町、旧揖保川町、旧御津町が2005年（平成17年）10月1日に合併し、歴史と文化に彩られた「たつの市」が新しく誕生し、市域、人口、産業構造が大きく変化しました。



国指定史跡 新宮宮内遺跡



龍野の町並み



永富家住宅



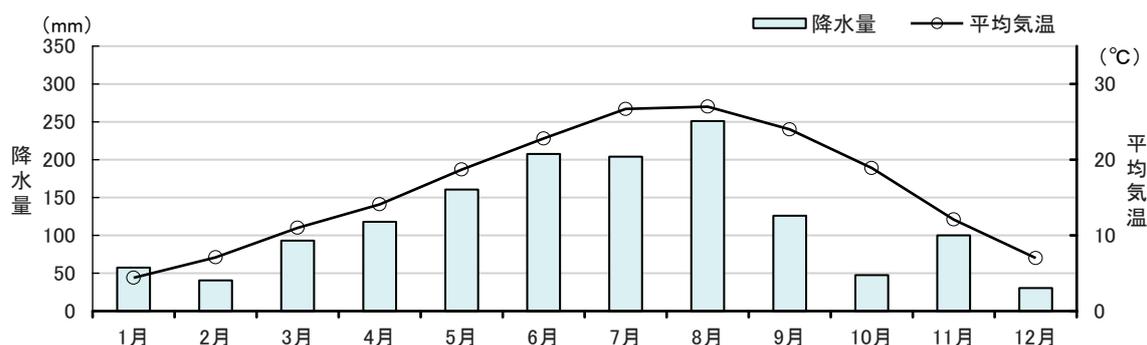
室津海駅館

(3) 気候

本市の気候は、瀬戸内海式気候の特徴を有し、年間を通じ温暖です。

また、梅雨・台風時期を除き雨が少なく、近年では大規模災害の発生もなく、比較的恵まれた気候となっています。

2021年（令和3年）は、年平均気温16.2℃、平均湿度73.0%、年間降水量1,436.0mmで、降雨日数は85日となっています。



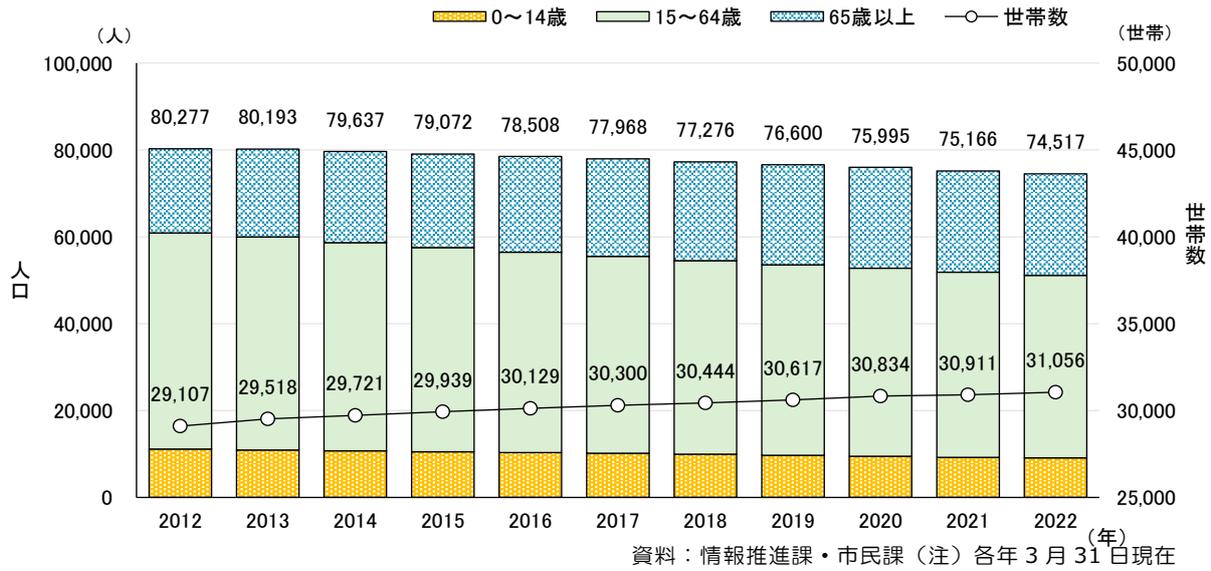
資料：気象庁ホームページ（姫路地点）

月別平均気温及び降水量（2021年（令和3年））

(4) 人口

本市の人口は、2012年（平成24年）3月末の80,277人から10年後の2022年（令和4年）3月末では、74,517人と約7.2%減少した一方、世帯数は29,107世帯から31,056世帯と約6.7%増加しており世帯内の人数が減少しています。

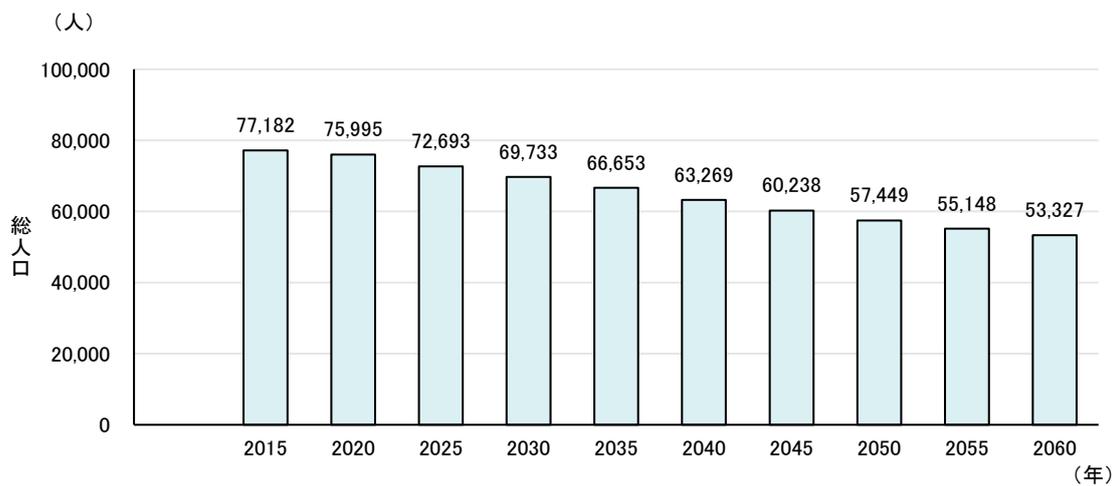
また、15歳未満の年少人口は、2012年（平成24年）3月末の11,123人から2022年（令和4年）3月末では、9,108人と約18.1%減少した一方、65歳以上の高齢人口は19,391人から23,394人と約20.6%増加しており、少子高齢化が進行しています。



人口と世帯の推移

2021年度（令和3年度）に策定した「たつの市人口ビジョン」では、本市の人口減少の傾向は「転出超過が続く社会減とともに、少子・多死社会の到来による自然減の加速」を要因として挙げています。

2060年（令和42年）の将来人口については、本市のこれまでの人口動向や人口の将来展望に向けた対応策を見込んだ将来シミュレーションの結果を踏まえ、53,000人としています。



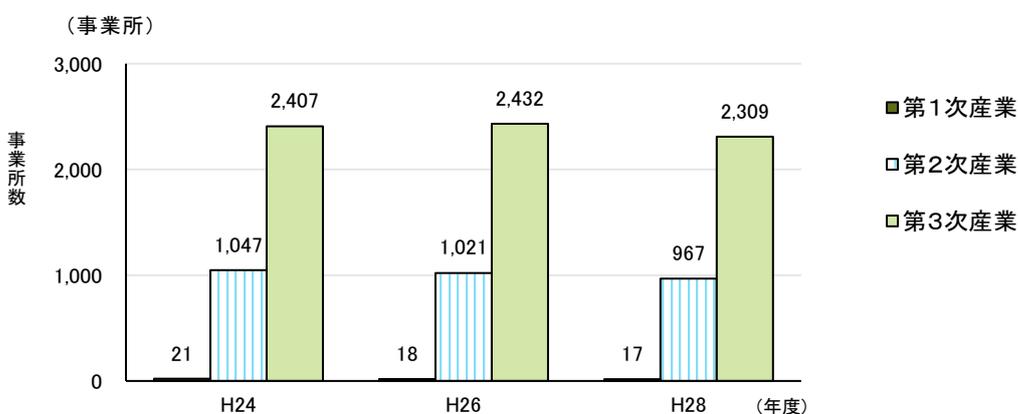
資料：たつの市人口ビジョン（令和3年度改訂版）

将来推計人口

(5) 産業

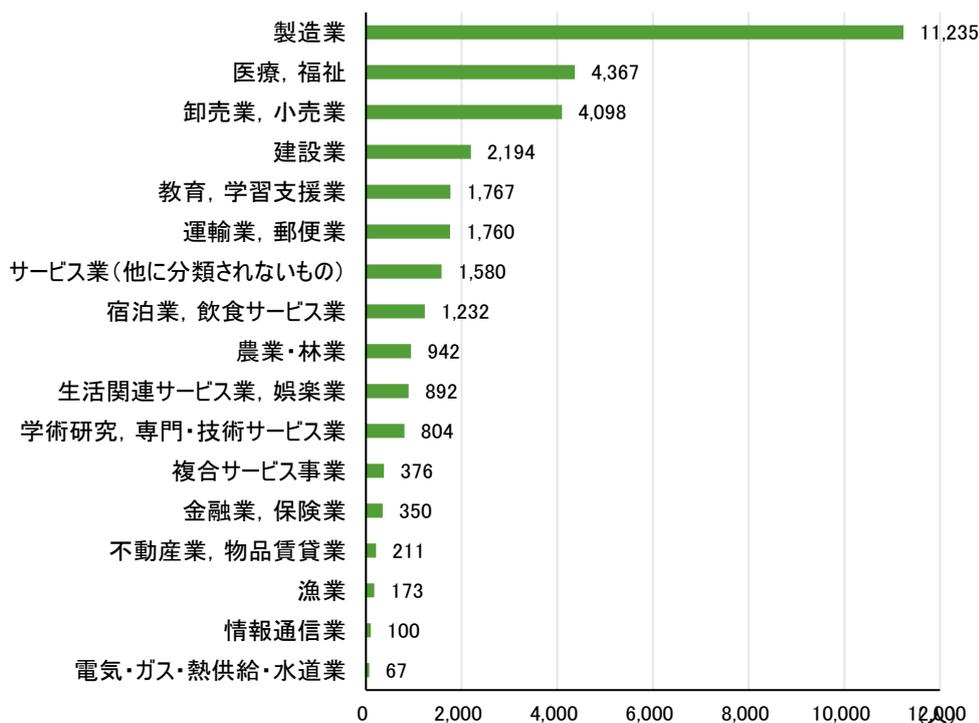
本市の産業は、清流揖保川の豊かな恵みを受けて発展し、淡口醤油、手延素麺、なめし革の地場産業とその加工品のランドセル製造では全国トップクラスのシェアを誇る一方、播磨科学公園都市では先端科学技術を活かしたものづくり産業が集積してきています。また、農業では、主食用米、麦、大豆のほか、トマト、大根、人参など、消費者のニーズに対応した農産物の栽培が盛んに行われています。

2016年度（平成28年度）経済センサス活動調査では、3,293事業所のうち第3次産業が2,309事業所と7割を占めていますが、事業所数は減少傾向にあります。また、市域での総従業員数は、31,917人となっており、製造業に携わる人数が最多となっています。



産業大分類別事業所数の推移

資料：情報推進課
「平成28年経済センサス-活動調査」



産業大分類別従業者数

資料：情報推進課
「平成28年経済センサス-活動調査」

(6) 土地利用状況

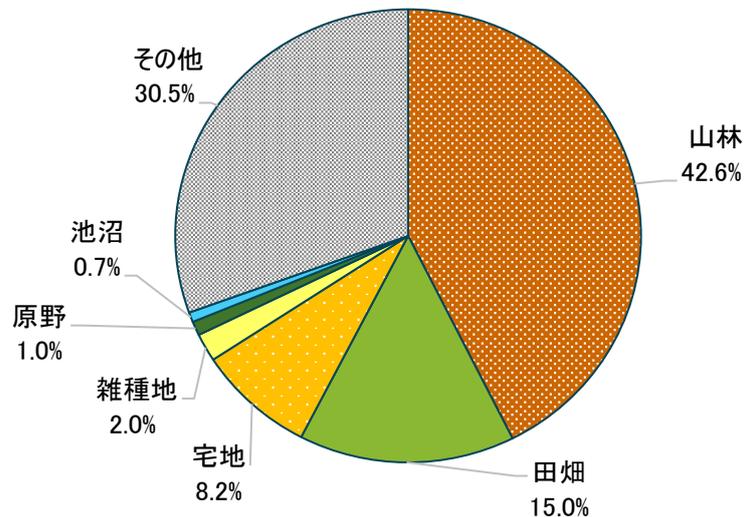
① 都市計画区域などの状況

本市の都市計画では、総面積 21,087ha のうち約 76.0%の 16,037ha が都市計画区域に指定されており、そのうち 1,184ha が市街化区域に、13,268ha が市街化調整区域に指定されています。

区域区分を定めていない都市計画区域は、播磨科学公園都市を含む 1,585ha となっていますが、そのうち 445ha は用途地域が指定されています。

② 地目別土地利用面積の状況

本市の地目別土地利用の割合は、山林が 42.6%、田畑が 15.0%、宅地が 8.2%などとなっており、山林が大きな割合を占めています。

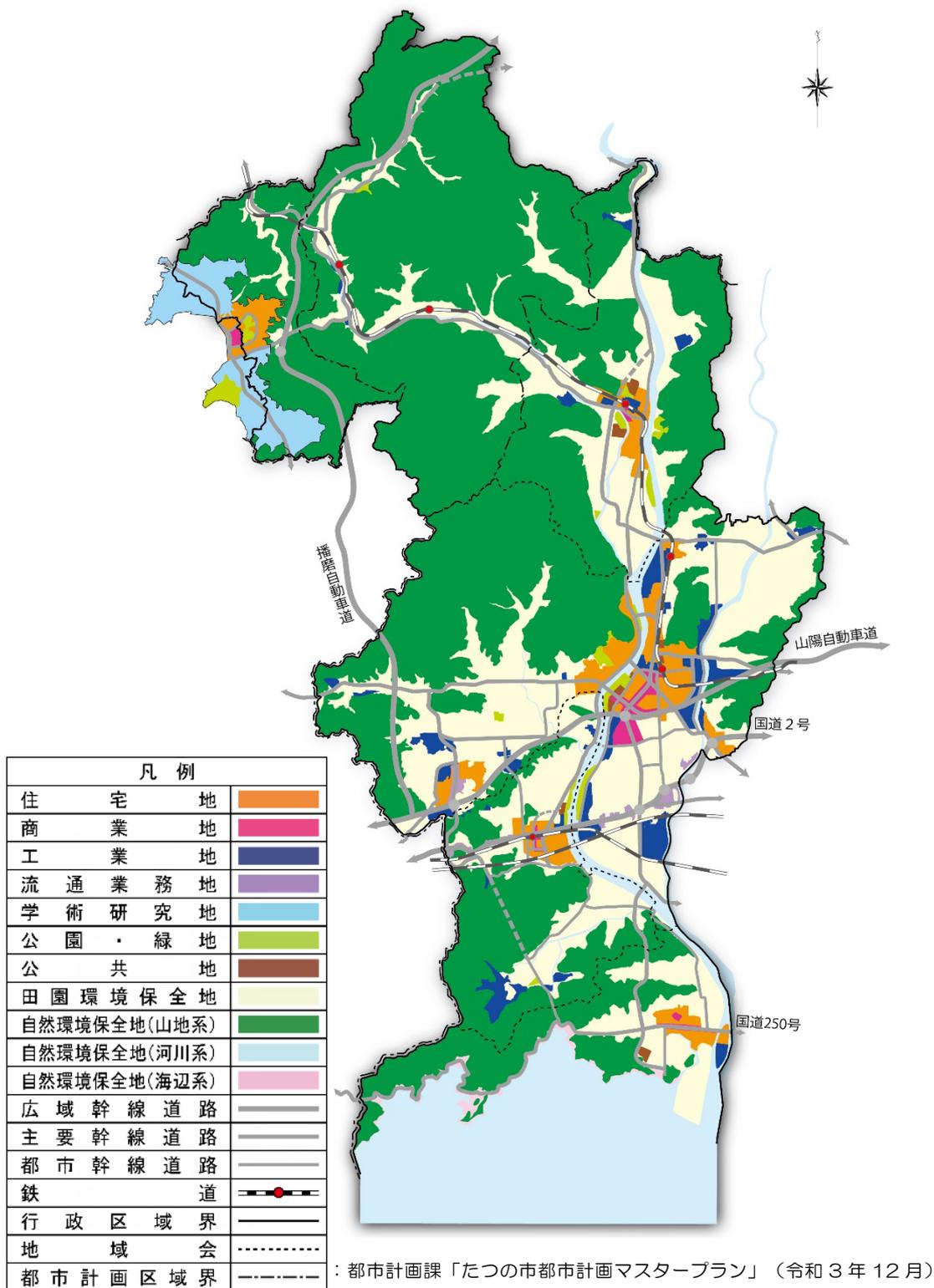


資料：たつの市統計書（令和3年度版）

地目別土地利用面積の状況（2021年（令和3年））

③ 土地利用方針

たつの市都市計画マスタープランでは、「みんなで創る 快適実感都市「たつの」」を目指すべき都市像とし、豊かな田園環境や自然環境の保全と活用、交通利便性を活かしながら、中心市街地や幹線道路沿道において大規模集客施設を適正に誘導するなど、各地域の特性にあった土地利用の方針を立てています。



土地利用の方針図

土地利用計画（たつの市都市計画マスタープラン抜粋）

都市的 土地利用を 推進する 地区	住 宅 地	<ul style="list-style-type: none"> 都市交流拠点及び周辺の住宅地は、商業・業務施設と生活利便性の高い住宅地を区分し、良好な居住環境の保全に努めます。 新都市交流拠点の住宅地は、周辺の緑と調和した快適な居住環境の形成を目指します。
	商 業 地	<ul style="list-style-type: none"> J R本竜野駅周辺から山陽自動車道龍野 IC 周辺、J R播磨新宮駅周辺、J R竜野駅周辺、御津総合支所など商業施設や日常生活の利便施設が集積する地域や交通利便性が高く新たな商業地として検討すべき地域を商業地と位置づけます。 主要な道路の沿道については、周辺の土地利用との調和を図りながら、商業・業務施設の立地を促進します。
	工 業 地	<ul style="list-style-type: none"> 市内に点在する大規模な工場や企業団地などの工業集積地、工業地としての利活用が望ましい地域は、工業の振興を図る地域として工業地と位置づけるとともに、周辺の居住環境や営農環境に配慮した工業地の形成を目指します。
	流 通 業 務 地	<ul style="list-style-type: none"> 山陽自動車道龍野西 IC 周辺及び国道2号沿道を流通業務地と位置づけ、交通利便性を生かした流通業務施設や沿道業務施設の集積を図ります。
	学 術 研 究 地	<ul style="list-style-type: none"> 播磨科学公園都市内の学術研究機能と先端科学技術産業を有するエリアを学術研究地と位置づけ、先端科学技術産業、医療・健康福祉施設を誘導しつつ、新たな工業用地の確保に努めます。
	公 園 ・ 緑 地	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園や河川敷緑地を公園緑地とし、魅力ある公園として機能の充実を図ります。
	公 共 地	<ul style="list-style-type: none"> 官公庁施設、小・中・高等学校、認定こども園など公共地の施設機能の充実に努めます。
都市的 土地利用を 抑制する 地区	田園環境保全地	<ul style="list-style-type: none"> 一団の優良農地やほ場整備などの農業基盤整備を実施した地域では、農業生産環境の保全及び農業振興を図ります。 農村集落では、安全でゆとりある居住環境の保全に努めるとともに、地域コミュニティの維持や活性化を図ります。 幹線道路沿道やインターチェンジ周辺については、景観・背後地の土地利用などに配慮しつつ、秩序ある土地利用の規制・誘導を図ります。
	自然環境保全地	<ul style="list-style-type: none"> 市域の約半分を占める森林は、水源かん養*や自然災害の防止、大気の浄化などの機能を果たしているため保全に努めます。 本市を南北に流れる揖保川、林田川、栗栖川の周辺は、自然環境の保全と水辺空間の活用を図ります。 瀬戸内海国立公園内の美しい海岸、山林や歴史的な町並みが残る漁村集落などの環境保全と観光資源としての活用を図ります。

資料：都市計画課「たつの市都市計画マスタープラン（令和3年12月）」

(7) 交通

本市の主な道路網は、東西方向に北から、山陽自動車道、国道2号、国道250号が横断しており、南北方向に東から、国道179号、播磨自動車道が縦断しています。また、播磨自動車道播磨新宮インターチェンジと穴栗ジャンクションを結ぶ中国横断自動車道姫路鳥取線の整備が行われ2022年（令和4年）年3月に完成しました。

鉄道は、相生市から揖保川町、揖保町を経由して姫路市に通じるJR山陽本線及び新宮町から南下し、神岡町、龍野町を経由して姫路市へ通るJR姫新線が運行しており、市民生活に欠かせない重要な公共交通機関となっています。

主要道路の交通量

路線名	路線			交通量観測地点名	交通量(台)		
	起点	終点	区間延長(km)		昼間 (6:00 ~ 22:00)	夜間 (22:00 ~ 6:00)	24時間
山陽 自動車道	姫路市・たつの市境	網干たつの線	3.8	一般国道29号山陽姫路西IC~ 網干たつの線龍野IC	24,061	17,143	41,204
	網干たつの線	竜野西インター線	4.4	網干たつの線龍野IC~ 竜野西インター線龍野西IC	23,984	17,901	41,885
	竜野西インター線	播磨自動車道	1.5	竜野西インター線龍野西IC~ 播磨自動車道播磨JCT	23,392	18,009	41,401
	播磨自動車道	たつの市・相生市境	0.5	播磨自動車道播磨JCT~ 岡山赤穂線赤穂IC	22,626	17,862	40,488
播磨 自動車道	山陽自動車道	播磨新宮インター線	7.4	山陽自動車道播磨JCT~ 播磨新宮インター線播磨新宮IC	1,147	152	1,299
一般国道 2号	太子町・たつの市境	網干たつの線	2.3	揖保郡太子町佐用岡	39,142	18,377	57,519
	網干たつの線	たつの竜野停車場線	2.2	たつの市揖保川町山津屋	32,039	16,019	48,058
	たつの竜野停車場線	たつの市・相生市境	2.7	たつの市揖保川町原	30,769	14,406	45,175
一般国道 29号	姫路市・たつの市境	姫路新宮線	0.6		15,463	4,639	20,102
	姫路新宮線	たつの市・姫路市境	0.8	穴栗市山崎町須賀沢	11,521	3,189	14,710
一般国道 179号	太子町・たつの市境	姫路上郡線	0.5	たつの市誉田町福田	12,206	4,150	16,356
	一般国道2号	西脇誉田線	3.0	たつの市龍野町宮脇	13,088	4,450	17,538
	姫路上郡線	姫路上郡線	1.2	たつの市龍野町下川原	12,803	4,225	17,028
	姫路上郡線	穴栗新宮線	5.0	たつの市新宮町平野	10,695	3,422	14,117
	穴栗新宮線	上笹千本停車場線	4.5	たつの市新宮町平野	10,140	2,677	12,817
	上笹千本停車場線	相生穴栗線	4.1	たつの市新宮町栗町	8,576	2,659	11,235
	相生穴栗線	たつの市・佐用町境	4.7	佐用郡佐用町乃井野	5,167	1,430	6,597
一般国道 250号	姫路市・たつの市境	岩見揖保川線	4.1	姫路市網干区浜田	12,600	4,284	16,884
	岩見揖保川線	たつの市・相生市境	8.7	相生市相生2丁目	2,832	453	3,285

資料：平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査

(人)※1日平均



鉄道各駅乗車人数の推移

資料：たつの市統計書（令和3年度版）



多くの自動車が行き交う
国道2号門前西交差点



県道網干たつの線 市場碓岩トンネル
(御津町碓岩)



JR 山陽本線
(揖保川橋梁)



JR 姫新線
(揖保川橋梁)

2 各環境分野における現況と課題

(1) 生活環境分野

現況

【大気環境】

本市の大気環境については、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、微小粒子状物質の測定数値は環境基準値*を達成しています。

光化学オキシダント*の濃度が一定以上になると、光化学スモッグ広報発令をすることとなりますが、平成27年の予報以降の発令はありません。

市に寄せられた生活環境に係る苦情は、2021年度（令和3年度）では126件受け付けており、そのなかでは野焼き*に関するものが27件と最も多くなっています。

【水環境】

本市の公共用水域における環境については、公共下水道などの整備による雑排水の減少や事業所の環境保全の取組などが進められてきたことにより、環境基準値*を達成しています。

【騒音・振動】

本市における山陽自動車道、国道2号などの幹線道路の自動車騒音については、概ね環境基準値*を達成しています。

新幹線の騒音については、兵庫県が測定した地点において、概ね環境基準値*を達成しています。振動は、環境基準が定められていませんが指針値*を下回っています。

【悪臭】

本市では、特定悪臭物質濃度規制方式による悪臭の規制基準を設けており、工場や事業場などにおいて法令に基づく立入調査を実施するなど、快適な環境を確保するよう努めています。

【上下水道・道路】

本市の水道事業については、詳細型アセットマネジメント*に基づき、管路の更新を行っています。

下水道事業について、劣化が激しい下水道施設の改築や更新等を行っています。

道路整備について、狭あいな道路の拡幅や、道路排水の整備により安全で快適な道路環境を創出しています。

【公園緑地】

都市公園の機能を維持するため、自治会と協働により清掃や除草等を行うとともに、遊戯施設などの公園施設の点検、維持修繕を行っています。

市街地における緑化については、花と緑の協会を中心に緑化活動が行われているほか、自治会等により県民まちなみ緑化事業を活用した事業が行われています。

【景観】

国の重要伝統的建造物群保存地区*に選定された龍野地区や、日本遺産に認定された北前船関連文化財を有する室津地区の歴史遺産を活用した事業を展開しています。

龍野及び室津の歴史的景観形成地区*等においては、町並み整備助成事業等により歴史的建造物の保全を図った結果、良好な町並み景観の形成が推進されるとともに、同建造物の活用事例が増加しています。

また、空き家対策については、空き家相談センターを開設し、利活用を推進しています。



昔ながらの風景が残る室津地区



歴史を感じさせる龍野地区

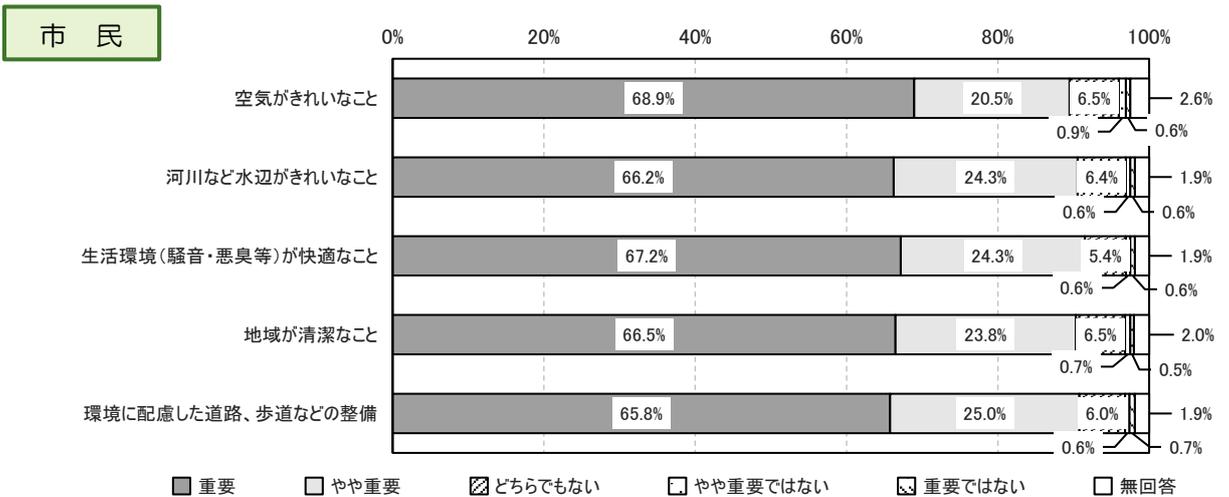
市民・事業者の意識（アンケート調査の結果）

生活環境に関する調査では、いずれの項目についても「重要」又は「やや重要」と回答した割合が約9割であり、市民の関心の高さがうかがえます。

市民の身近な緑化への取組に関する調査では、「積極的に行っている」又は「ときどき行っている」という回答が6～7割と高く、市民の意欲がうかがえます。

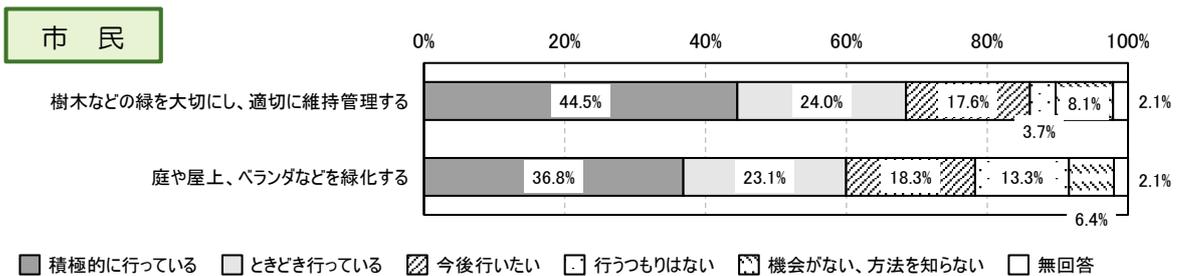
事業所の敷地内緑化の調査では、「取り組んでいる」又は「取組を予定・検討している」という回答が8割以上となっています。

生活環境の重要度は？



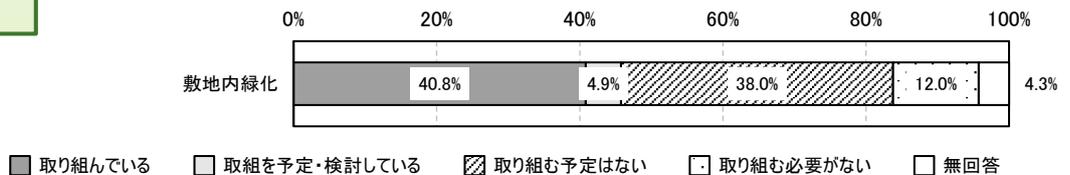
たつの市の環境についてのアンケート（市民）

緑化に取り組んでいますか？



たつの市の環境についてのアンケート（市民）

事業者



たつの市の環境についてのアンケート（事業所）

課題

- ◆大気、水質、騒音、振動、悪臭などについては、引き続き良好な環境の維持に努めるとともに、苦情等の情報提供に対しては、発生源対策として管理者や原因者への指導、助言により、快適な生活環境を守る必要があります。
- ◆公害*発生の未然防止のため、引き続き、監視活動や啓発活動に取り組む必要があります。
- ◆水道事業については、将来の水需要に適応した送配水システムを検討し、施設の更新及び耐震化を効率的に進める必要があります。
- ◆下水道施設の適切な維持管理に努めるとともに、統廃合等も見据えながら耐用年数を経過した施設の順次更新を進める必要があります。
- ◆過去に浸水被害が生じた地区において、雨水幹線や雨水路整備等の浸水対策を行っていく必要があります。
- ◆緑化の推進については、市民や事業所等に緑の保全と緑化の意義について啓発するとともに、市民参加による活動を展開し、緑化の推進に努める必要があります。
- ◆町並みの保全については、国の重要伝統的建造物群保存地区*に選定された龍野地区においては、歴史的建造物や町並み等の保存と活用を図る必要があります。
- ◆日本遺産に認定された北前船関連文化財を有する室津地区においては、構成文化財の保存と活用を図る必要があります。
- ◆空き家・空き地が増加し、歴史的町並みが損なわれつつあり、対策を図る必要があります。

(2) 自然環境分野

現況

[豊かな生態系*]

本市には、揖保川を代表とする水系、東山、鶏籠山、綾部山などを始めとする森林、関西随一の遠浅海岸である新舞子浜、また、肥沃な土壌など、市内の地域ごとに特色ある自然環境が存在しています。それぞれの環境には、それぞれの環境に適応した動植物が互いに影響し合いながら生育・生息することで豊かな生態系*を形成しています。



市民に親しまれる揖保川と鶏籠山



幻想的な夜明けの新舞子浜

[重要な種]

「兵庫県版レッドデータブック（2011～2020）」によると、以下の表に示す409種（植物：114種、動物：295種）の注目すべき重要な種が、本市で生息・生育している可能性があるとしています。

たつの市に生息・生育する可能性のある注目すべき重要な種

区 分		種類	貴重性評価の区分※						
			A	B	C	要注目種	要調査種	地域限定貴重種	
植物	シダ植物		4	-	2	2	-	-	-
	種子植物	裸子植物	0	-	-	-	-	-	-
		被子植物	95	1	36	52	-	6	-
	苔 類		0	-	-	-	-	-	-
	蘇 類		1	-	-	1	-	-	-
	淡水藻類		4	2	-	2	-	-	-
	菌 類		10	-	1	-	7	2	-
	合 計		114	3	39	57	7	8	-
動物	哺乳類		5	-	-	-	2	3	-
	鳥 類		78	12	32	19	10	5	-
	爬虫類		3	-	-	1	1	1	-
	両生類		11	1	3	6	1	-	-
	魚 類		32	8	3	9	2	9	1
	昆虫類		60	6	16	20	17	1	-
	クモ類		1	1	-	-	-	-	-
	貝 類		58	18	20	17	3	-	-
	その他の無脊椎動物		47	6	19	20	-	2	-
	合 計		295	52	93	92	36	21	1

- ※ A : 兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策・厳重な保全対策が必要な種
- B : 兵庫県内において絶滅の危機が増大している種など、極力生息環境、自生地などの保全が必要な種
- C : 兵庫県内において存続基盤が脆弱な種

要注目種：最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種などの貴重種に準ずる種

要調査種：兵庫県での生息・生育の実態がほとんど分からないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種。

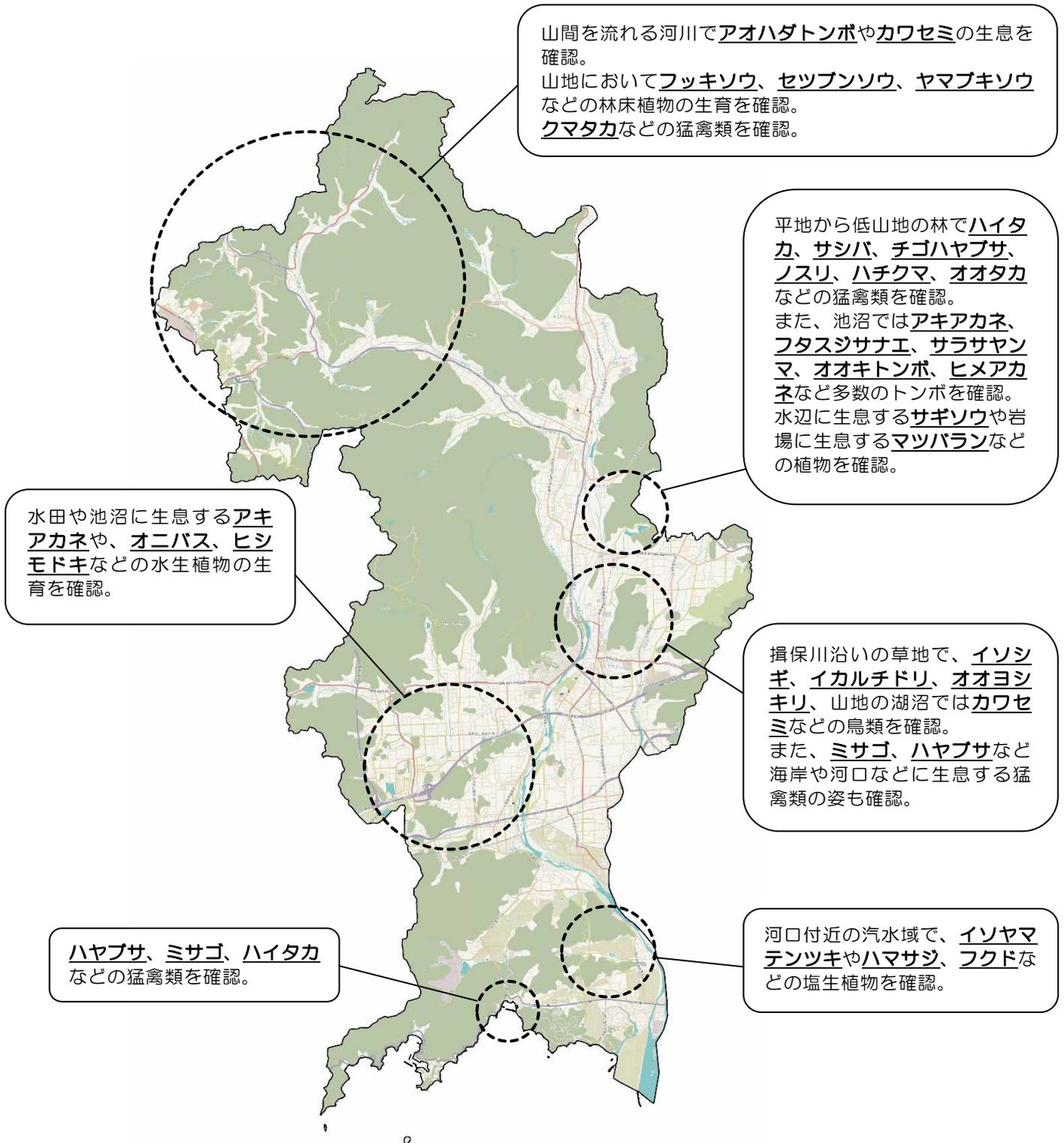
地域限定貴重種：兵庫県全域で見ると貴重とはいえないが、県内の特定の地域においてはA、B、C、要注目のいずれかのランクに該当する程度の貴重性を有する種であるとともに、「学術的に特に貴重とみなされる個体群」、「生物地理学的に重要な意味を持つ個体群」、「保全上重要な単位とみなされる個体群」として識別される種

出典：兵庫県版レッドデータブック

[市民による生物調査]

本市では 2014 年度（平成 26 年度）から 2016 年度（平成 28 年度）にかけて、市民等の協力のもと、生物調査（自然環境保護活動推進事業調査活動）を行いました。

その結果、次の図に示すような種が確認されています。本市が有する多様な自然環境を反映した種が生息、生育していることが分かります。



資料：自然環境保護活動推進事業調査活動・たつの市調査

市民環境調査により確認された動植物の分布

〈本市で確認された貴重な動植物〉



カワセミ



ヤマブキソウ



ハチクマ



オニバス



マツバラシ



サラサヤンマ



オオタカ



アキアカネ



フタスジサナエ



ヒシモドキ



オオヨシキリ



イカルチドリ



クマタカ



ハヤブサ



イソヤマテンツキ

資料：自然環境保護活動推進事業調査活動・たつの市調査

〔外来生物〕

「兵庫県の生物多様性*に悪影響を及ぼす外来生物リスト（ブラックリスト）（2010）（R3.2.10 までの追加等を含む）」によると、現在、本市を含む播磨西部地域で確認されている生物多様性*に悪影響を与える生物は 76 種類であり、このうち、特に生態系*に深刻な影響を与える生物（特定外来生物*）として、「特定外来生物*被害防止法」で指定されている生物は、14 種類となっています。

特定外来生物*の生息環境及び生物多様性*への影響

分類	種名	生息環境	生物多様性*への影響
哺乳類	ヌートリア	湖沼、河川、水田、湿地、干潟、草地	水生植物に対する食害、水鳥との食性の競合
	アライグマ	湖沼、河川、水田、草地、森林、市街地	在来生物の捕食・競合、鳥類への営巣妨害・営巣放棄
	台湾リス	森林、市街地	樹皮剥離による樹木の枯死 在来種との競合
両生類	ウシガエル	湖沼、河川、水田、湿地	在来種の捕食・競合
魚 類	ブルーギル	湖沼、河川	在来種の捕食・競合
	オオクチバス	湖沼、河川	在来種の捕食・競合
	コクチバス	湖沼、河川	在来種の捕食・競合
維管束植物	アゾラ・クリスタータ	湖沼、河川、水田、湿地	被陰、富栄養化、在来種との競合、遺伝子攪乱
	アレチウリ	河川、湿地、草地	在来種との競合
	オオフサモ	湖沼、河川	在来種との競合、水質悪化、水流阻害
	オオカワチシャ	河川、湿地	在来種との競合、遺伝子攪乱
	オオキンケイギク	河川、草地、市街地	在来種との競合
	ナルトサワギク	河川、海浜、草地	在来種との競合、牧草の成長阻害（アレロパシー効果*）、草食動物への中毒
	ボタンウキクサ	湖沼、河川	在来種やイネとの競合、水質悪化、水流阻害、在来種の成長阻害（アレロパシー効果*）

資料：兵庫県の外来生物（ブラックリスト 2010（2019 改訂版））

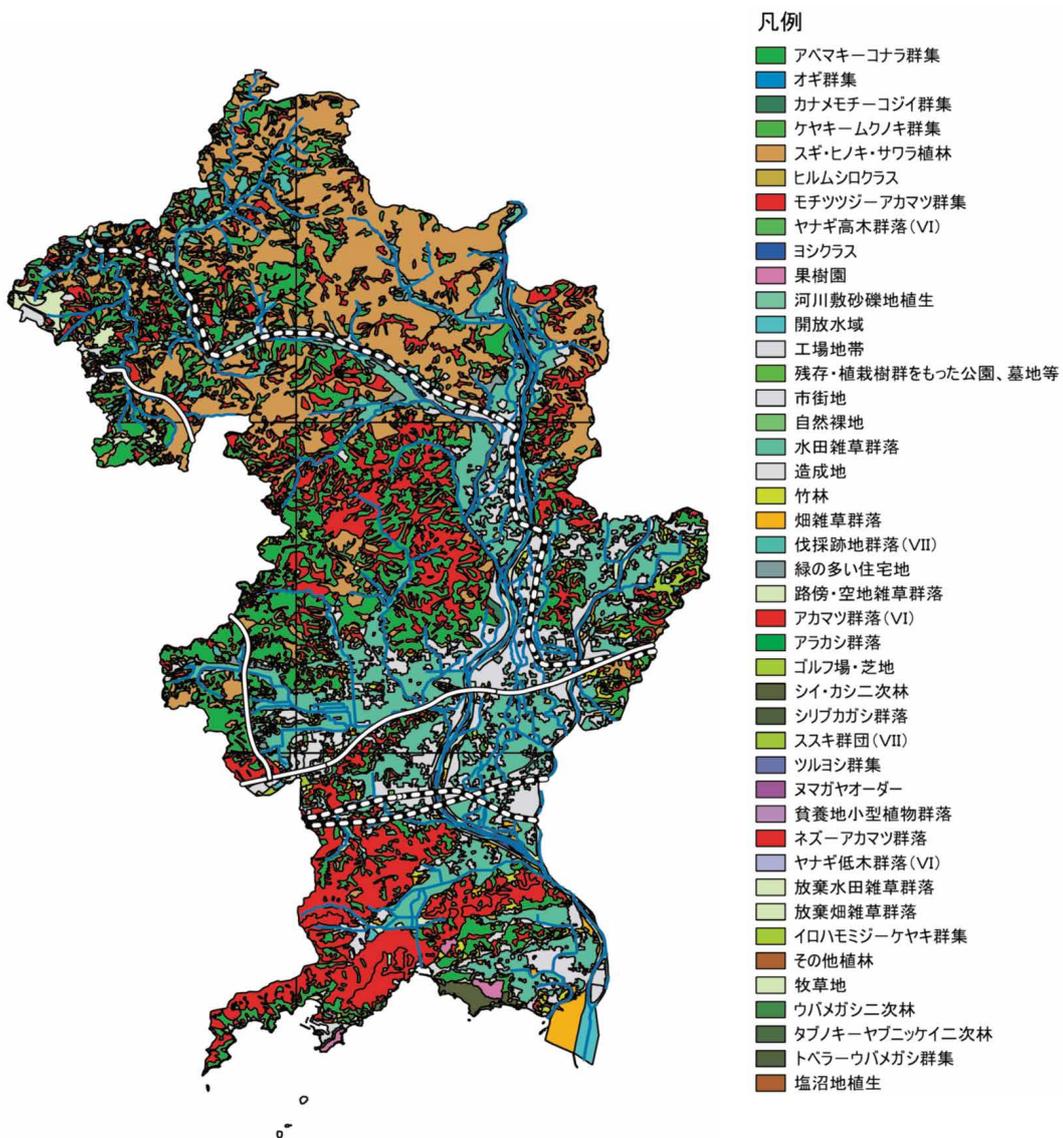
〔森林〕

本市の山林は、市域の42.6%を占めており、その植生は北部にはコナラ群落とスギ・ヒノキ・サワラなどの常緑針葉樹林が、中部から南部ではモチツツジ・アカマツ群落、市街地を中心に山間部を縫うように広がっています。

特に、山麓に龍野城がある鶏籠山には、兵庫県版レッドデータブック2020（植物・植物群落）のBランクに指定されているコジイ林がまとまった面積で分布しています。

しかし、産業構造の変化や林業の担い手不足、集落住民の高齢化などに伴い、人工林の間伐*や里山*としての管理が十分にできないことから、森林の持つ公益的機能の低下が懸念されています。

森林が減ると大気中の二酸化炭素が増大し、地球温暖化が進みます。また、エサとなる植物が減ると鹿や猪などがエサを求め、人里に出て農作物に被害を与えたり、そこに暮らす生物に影響を与えることによって、生物多様性*が失われます。



植生図

資料：環境省自然環境保全基礎調査

【河川】

本市を貫流する清流揖保川を本流とする揖保川水系は、「播磨五川」のうち加古川に次ぐ流域面積を誇り、貴重な植物や魚類、鳥類などの重要な生育・生息環境となっています。本市では、この豊かな自然環境をフィールドとした「たつのこどもエコクラブ」などの環境学習を進めています。



子どもたちによる水生生物調査
(たつのこどもエコクラブ)

【海岸】

日本の重要湿地 500 に選定されている、瀬戸内海国立公園内の新舞子浜の海岸は、美しい景観や、多様な生物、貴重な植物などが見られる一方で、砂の流出や生態系*の変化も確認されています。



干潟の模様（新舞子海岸）

【自然環境としての農地】

本市には、河川流域を中心として農地が広がっており、これらは農業生産の場であるとともに、生物の生息空間として重要な役割を果たしています。

一方で、近年は農業従事者の高齢化などに伴い、耕作放棄地が問題となっています。



揖保川町金剛山の圃場

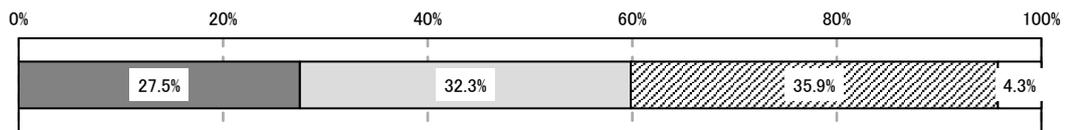
市民・事業者の意識（アンケート調査の結果）

市民への生物多様性*の認知度に関する調査では、「言葉は知っており、意味も理解している」と回答した割合は約28%に留まっています。

事業者への事業活動と生物多様性*に関する調査では、「自社の事業活動との関連性は低い」との回答は56%となっています。

生物多様性*について認識していますか？

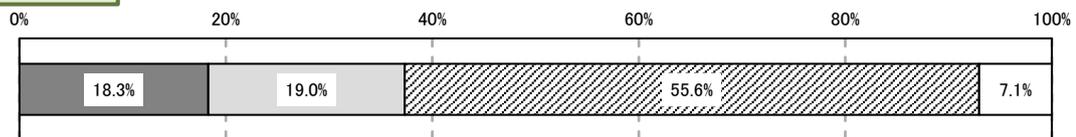
市民



■ 言葉を知っており意味も理解している □ 言葉は知っているが、意味は知らない ▨ 言葉も意味も知らない □ 無回答

たつの市の環境についてのアンケート（市民）

事業者



■ 自社活動と関連有重要視している □ 自社活動と関連無重要視していない ▨ 生物多様性は重要自社とは関連低い □ 無回答

たつの市の環境についてのアンケート（事業者）

課題

- ◆市民・NPO・事業者・行政等が連携し、生物多様性*保全の取組を促進することにより、豊かな自然を将来に継承していく必要があります。
- ◆利用されずに放置されている里山*の機能を回復させるための整備を行うとともに、伐採や植栽がなされずに放置されている人工林についても整備を行い、環境林として保全する必要があります。
- ◆土砂流出・地すべり・山腹崩壊・がけ崩れ等の土砂災害が発生するおそれのある区域については、市民の生命・財産を守る対策を講ずる必要があります。
- ◆水害被害の軽減を図るため、治水事業の推進や河川環境の整備を継続していく必要があります。
- ◆生態系*の変化が見られる海岸環境を維持するための対策を講ずる必要があります。

生物多様性*ってなあに??

地球上には3,000万種類もの生物がいるといわれています。

さまざまな環境で、たくさんの種類の生物が、相互に複雑に関わり合っていることを「生物多様性*」といいます。

「生物多様性*」の中で、わたしたち人間の生活は成り立っています。例えば、森は二酸化炭素を吸収し、酸素を作ります。そして、自然は災害から人間を守ってくれています。

また、食べ物やエネルギー、様々な製品の原料など、生活に欠かすことのできないものすべてが、「生物多様性*」からもたらされた自然のめぐみです。

今、この「生物多様性*」が、人間の暮らしの影響により失われつつあります。地球の生物多様性*についてよく知り、自分と世界の自然とのつながりを考え、「持続可能」な取り組みを行う必要があります。



(3) 循環型社会*分野

現況

【ごみの減量】

本市では「たつの市ごみ処理基本計画」に基づき、5R*（不要なものを断る（Refuse:リフューズ）、ごみの排出抑制（Reduce:リデュース）、使用済みの製品・部品の再利用（Reuse:リユース）、修理・修繕による長期間の使用（Repair:リペア）原材料としての利用などの再生利用（Recycle:リサイクル）を進めることにより減量化を促進し、その上で、なおかつ処理しなければならない廃棄物については、安全に処理することができるような体制整備を進めてきました。

（参考）たつの市ごみ処理基本計画基本方針

- ① 循環型社会*の構築
市民・事業者・行政の三者の協働により、「循環型社会*」の実現を目指して、「適正処理」から「循環処理」へのシステム変換を推進します。
- ② ごみの減量化
市民・事業者・行政が協働で5R*への取り組みを強化することにより、ごみの減量化を推進します。
- ③ 環境保全
環境への影響を最小限にするため、最適なごみ処理システムの構築を目指します。
- ④ 市民参加
積極的な啓発活動と市民参加型のごみ処理システムを構築することにより、廃棄物全般に関する市民意識の向上を図ります。

使用済みの小型電子機器等に利用されている有用な金属などの相当部分が回収されずに廃棄されている状況であることから、市役所環境課及び各総合支所において小型家電の回収活動を行うことにより、市民への啓発に努めています。

また、市民や事業者との協働で、食品廃棄物削減の取組を進めてきた結果、ごみ減量化に対する意識の高まりやごみの量の減少につながっています。

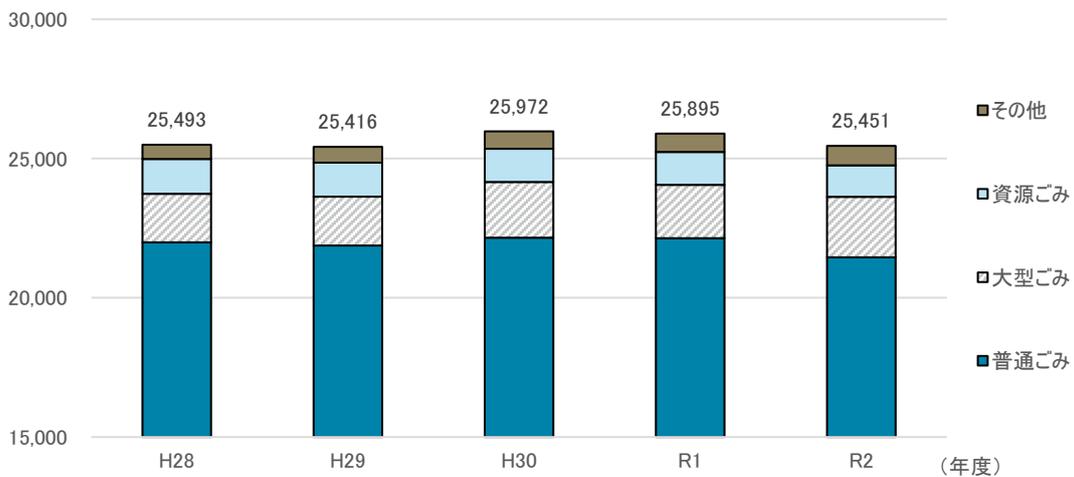


環境課に設置の小型家電回収ボックス



令和3年度
環境ポスター展
(アイデア賞)

(t)



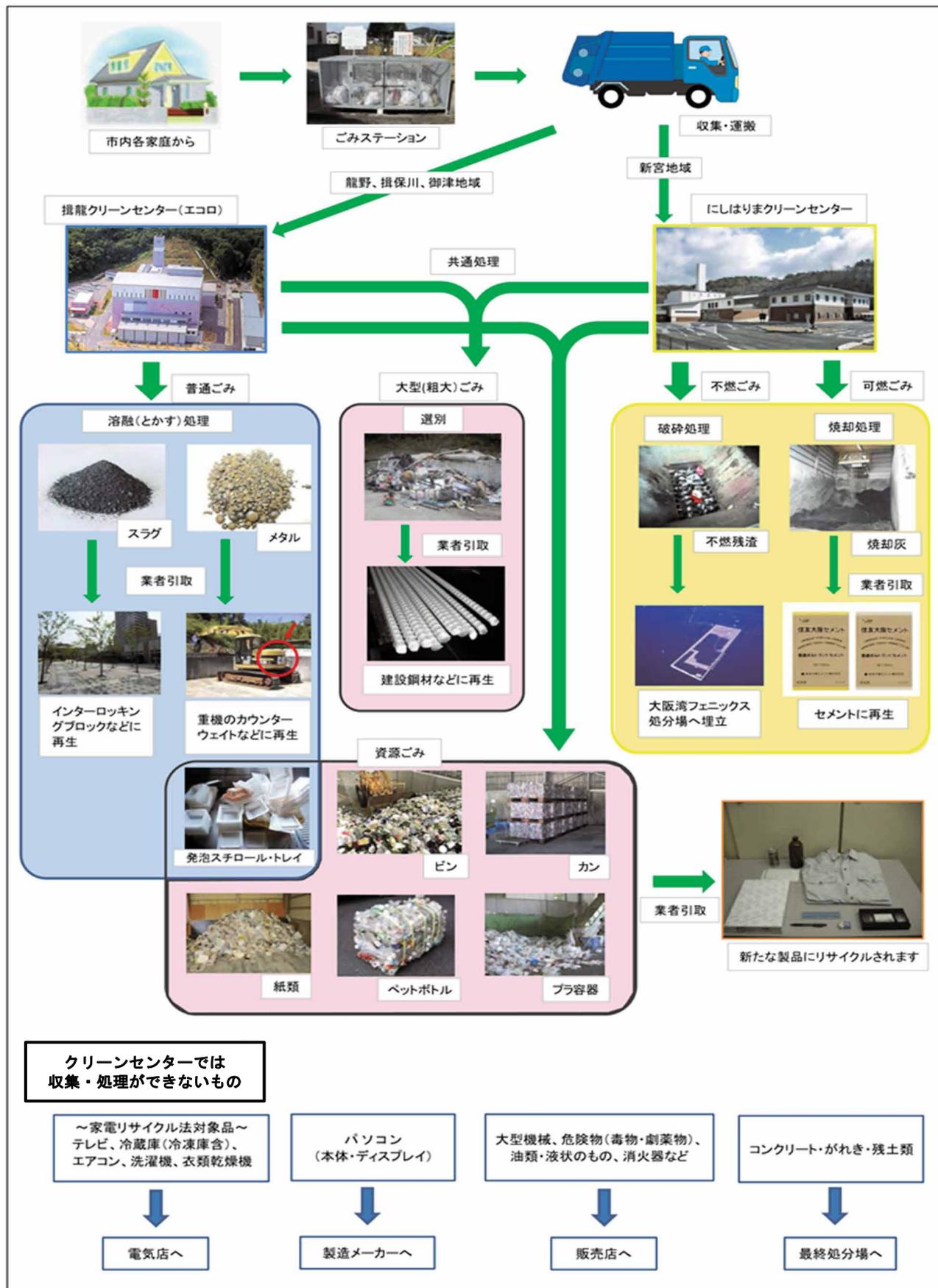
資料：環境課「揖龍クリーンセンター搬入実績一覧」及び「にしはりまクリーンセンター搬入実績一覧」

ごみ処理状況の推移

[ごみの処理]

普通ごみの中間処理は、揖龍クリーンセンター及びにしはりまクリーンセンターで一部事務組合を構成する市町と共同で焼却などの処理を行っています。

ごみの収集・処理の流れ





揖龍クリーンセンター



にしはりまクリーンセンター

【不法投棄】

本市では、不法投棄対策として、自治会への啓発看板の貸与、不法投棄監視協力員や関係機関などによるパトロールなどを実施しています。



河川における不法投棄パトロール

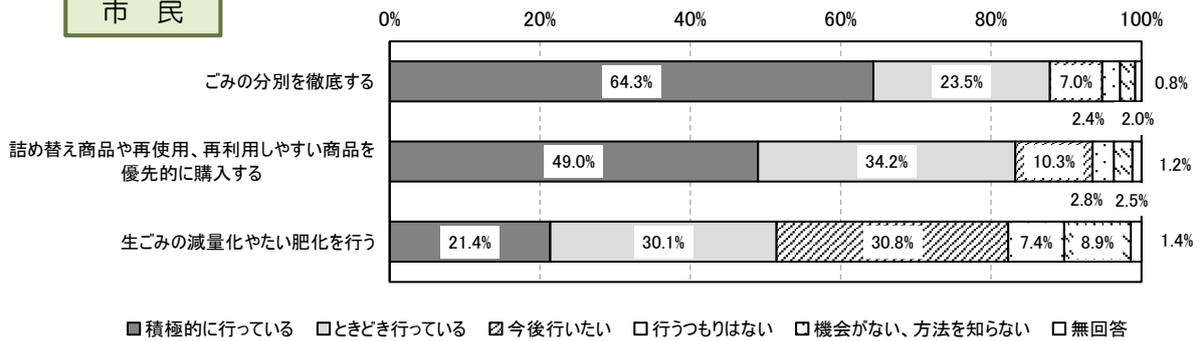
市民・事業者の意識（アンケート調査の結果）

市民のごみの減量に向けた取組については、「分別の徹底」を「積極的に行っている」もしくは「ときどき行っている」という回答が約88%と一番多くなっています。

事業所では、「再生紙等の利用」や「集団資源回収等への協力」などの取組が進んでいることがうかがえます。

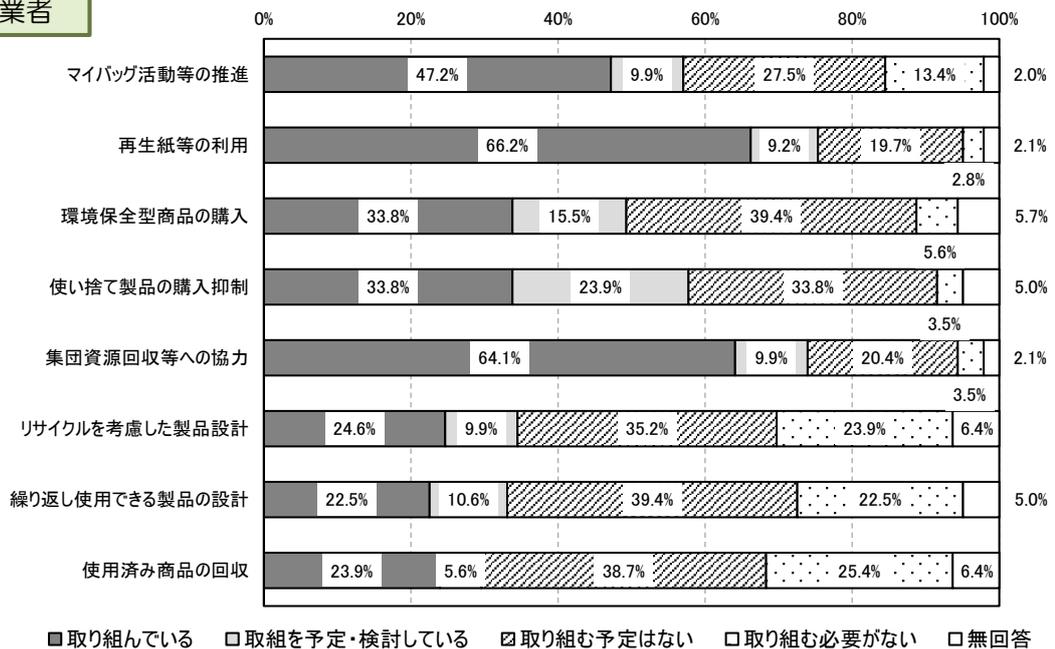
ごみの減量に取り組んでいますか？

市民



たつの市の環境についてのアンケート（市民）

事業者



たつの市の環境についてのアンケート（事業所）

課題

- ◆市民・事業者・行政が一体となってこれまで以上に資源ごみの分別と、ごみの減量化に取り組む必要があります。
- ◆揖龍クリーンセンターは老朽化が進んでおり、新しいごみ処理施設の整備計画を進めていきます。また、これにあわせて災害廃棄物进行处理するための対策を講ずる必要があります。
- ◆一般廃棄物最終処分場の残余容量が減少しつつあるため、不燃ごみの再利用に取り組んでいますが、長期的に埋立処分するための対策を講ずる必要があります。
- ◆本市の美しい生活環境を守るため、引き続き、不法投棄の未然防止に取り組む必要があります。



フードドライブ*



環境月間



令和3年度
環境ポスター展
(ハートフル賞)



令和3年度
環境ポスター展
(ユーモア賞)

(4) 地球環境分野

現況

【地球温暖化問題】

大気中に含まれる二酸化炭素などの温室効果ガス*の急激な増加に伴い、地球の平均気温は上昇し続けています。こうした地球の温暖化によって、海面上昇、暴風雨や熱波などの気象災害、干ばつや洪水、農作物の減収及び漁業資源の減少などによる食糧不足などの影響が懸念されています。私たちの身近なところでも、平均気温の上昇や、記録的な豪雨などによる被害が観測されています。

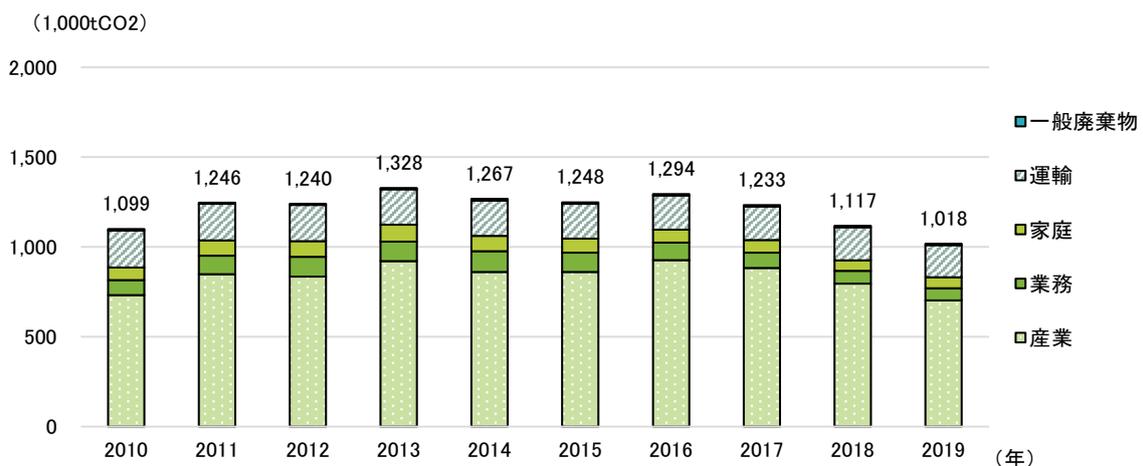
この地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて 2015 年にパリ協定が採択されました。この実現に向けて、世界が取組を進めており、120 以上の国と地域が「2050 年カーボンニュートラル*」という目標を掲げているところです。

我が国においても 2020 年（令和元年）10 月に「2050 年カーボンニュートラル*」を宣言し、温室効果ガス*排出量を、2030 年（令和 12 年）までに 2013 年度（平成 25 年度）比 46%削減を目指し、さらに、50%の高みに向けて、挑戦を続けていくとしています。

【本市の二酸化炭素排出量】

本市では、地球温暖化対策のため、温室効果ガス*の発生抑制と再生可能エネルギー*の導入を進めてきました。

本市における二酸化炭素排出量は、減少傾向にあります。



本市の部門別二酸化炭素排出量の推計

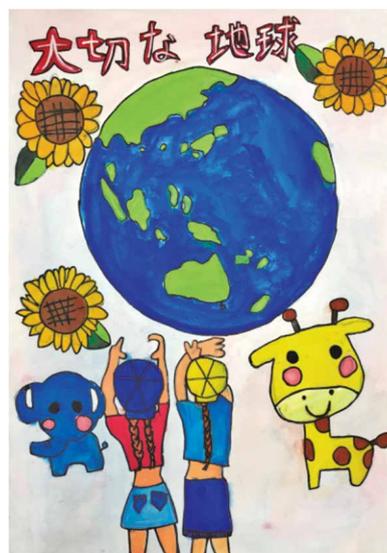
〔温室効果ガス*排出量の低減のために〕

温室効果ガス*排出量の低減には、市民や事業者の一人ひとりの取組が重要であることから、日常生活や事業活動を見直し、エネルギーの消費量を抑えるライフスタイル*、ビジネススタイルを確立するための情報発信や啓発活動を進めています。

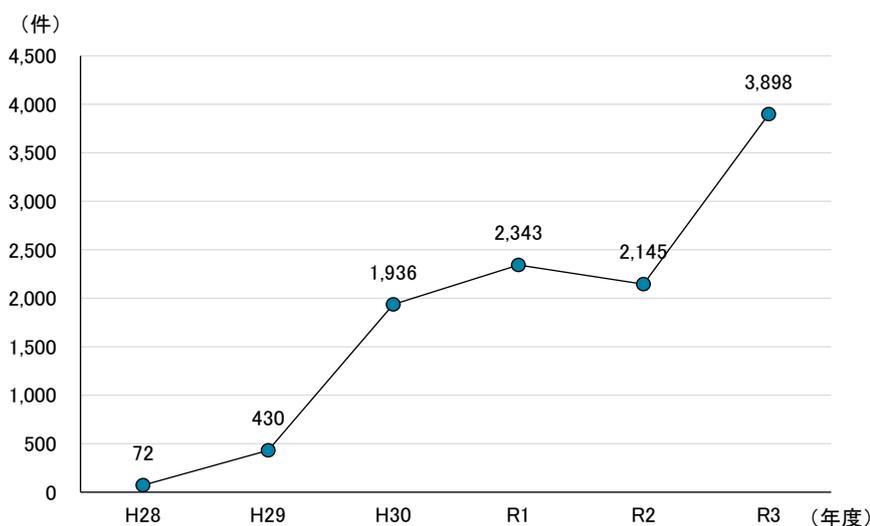
また、森林の樹木は、光合成により大気中の二酸化炭素を吸収しながら成長し、温室効果ガス*の貴重な吸収源となるため、本市の豊かな森林を保全していくことも重要となっています。兵庫県では、揖保川地域森林計画を策定し、適正な森林の保全等により健全な森林資源の維持造成を推進しています。

なお、市の事務及び事業においても、第2次たつの市地球温暖化防止実行計画に基づいて、温室効果ガス*の排出量の抑制への取組を進めています。

交通分野においては、自動車の過度な利用を控え、鉄道やバスなどの公共交通機関の活用やエコドライブ*を推奨するとともに、環境負荷の少ない電気自動車の利便性の向上に向け、道の駅などへの急速充電器の設置を進めています。



令和3年度
環境ポスター展
(エコアース賞)



資料：環境課

電気自動車用急速充電器利用件数（たつの市設置3箇所分）

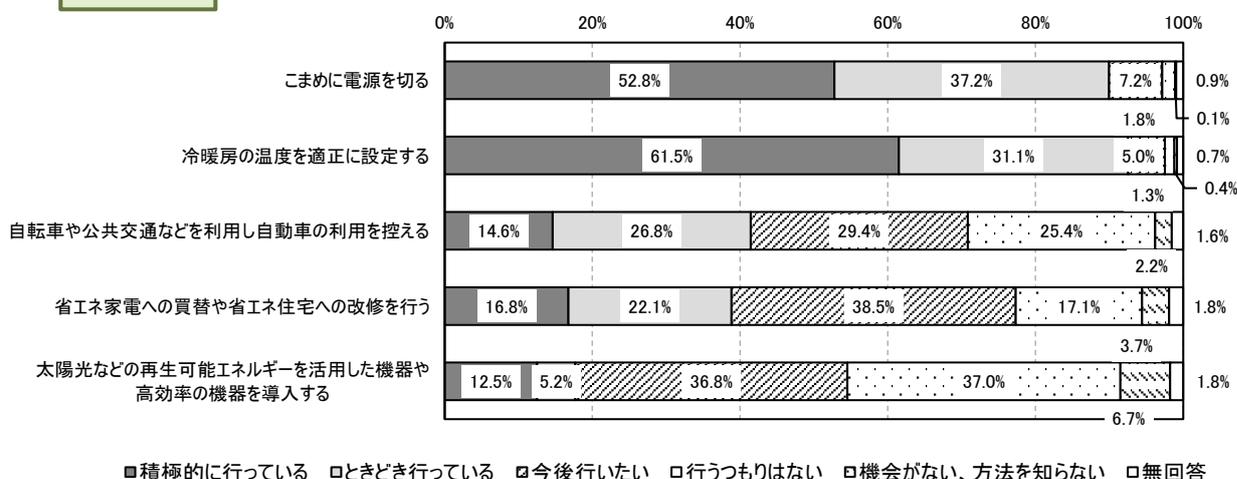
市民・事業者の意識（アンケート調査の結果）

市民の省エネに関する取組の調査では、「こまめに電源を切る」ことや「冷暖房を適正温度にする」ことなど、すぐにできる取組が9割以上の回答となっており省エネへの意欲がうかがえます。

事業所への調査では、「太陽光など自然エネルギーの利用」の取組が7割を超え、「設定温度・消灯などの省エネ対策」の取組が5割を超えています。

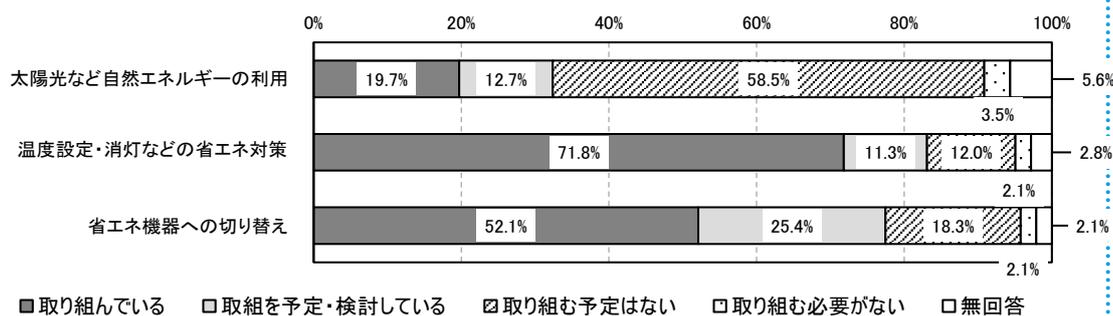
省エネなどに取り組んでいますか？

市民



たつの市の環境についてのアンケート（市民）

事業者



たつの市の環境についてのアンケート（事業所）

課題

- ◆脱炭素社会*実現のため、省エネルギー化の推進、化石燃料から再生可能エネルギー*へのエネルギー源の転換を進め、「2050年カーボンニュートラル*」の実現を目指す施策展開を図る必要があります。
- ◆環境学習等を行うとともに、市民一人ひとりの環境保全意識をより一層高揚させる必要があります。
- ◆エコカーの普及やエコドライブ*の推進とともに、公共交通機関の利用を推進させていく必要があります。

エコドライブ* 10のすすめ

エコドライブ*は、燃料消費量やCO2排出量を減らし、地球温暖化防止につながる”運転技術”や”心がけ”です。エコドライブ*は、誰にでも今すぐ始めることができるアクションです。

1 自分の燃費を把握しよう

(自分の車の燃費を把握することを習慣にしましょう。)

2 ふんわりアクセル「eスタート」

(発進する時は、穏やかにアクセルを踏んで発進しましょう。)

3 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転

(走行中は、一定の速度で走ることを心がけましょう。)

4 減速時は早めにアクセルを離そう

(信号が変わるなど停止することがわかったら、早めにアクセルから足を離しましょう。)

5 エアコンの使用は適切に

(暖房のみ必要なときは、エアコンスイッチをOFFにしましょう。また、冷房が必要なときでも、車内を冷やしすぎないようにしましょう。)

6 ムダなアイドリングはやめよう

(待ち合わせや荷物の積み下ろしなどによる駐停車の際は、アイドリングをやめましょう。)

7 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう

(出かける前に、渋滞・交通規制などの道路交通情報や、地図・カーナビなどを活用して、行き先やルートをあらかじめ確認しましょう。)

8 タイヤの空気圧から始める点検・整備

(タイヤの空気圧チェックを習慣づけましょう。)

9 不要な荷物はおろそう

(運ぶ必要のない荷物は車からおろしましょう。)

10 走行の妨げとなる駐車はやめよう

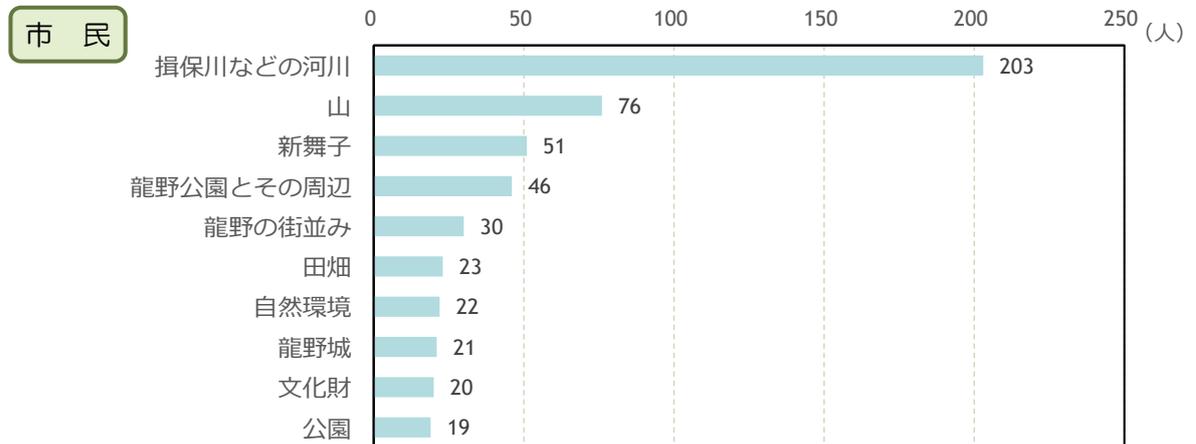
(迷惑駐車はやめましょう。)

資料：エコドライブ*普及連絡会

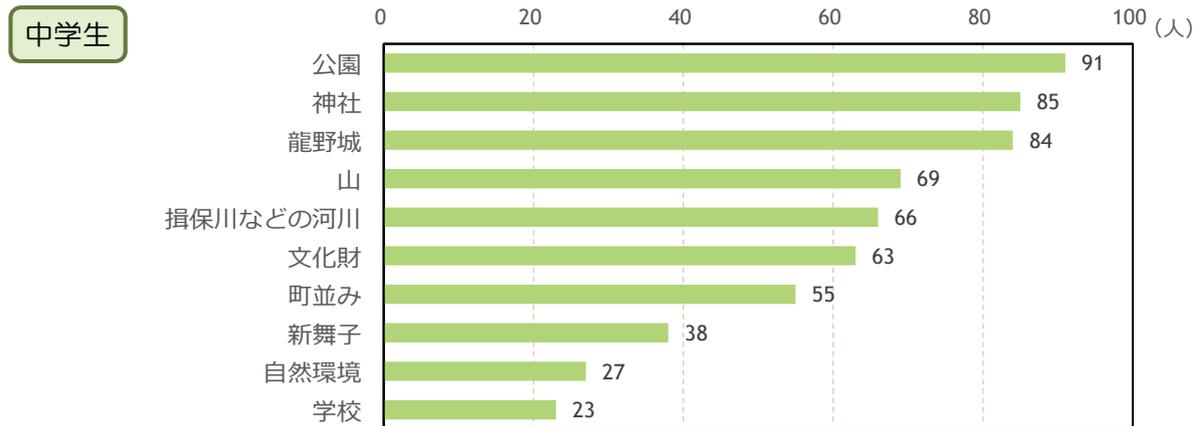
3 次世代に残したい環境資源

「次世代に残したい本市の環境資源」について、市民及び中学生を対象としたアンケート調査では、次の表のような結果となりました。

次世代に残したいたつの市の環境資源を最大3つ記載してください



たつの市の環境についてのアンケート（市民）



たつの市の環境についてのアンケート（中学生）

市民の回答で最も多かったのは「揖保川などの河川」であり、次いで「山」、「新舞子」、「龍野公園とその周辺」の順になっています。

中学生の回答では「公園」が最も多く、「龍野公園」や地域の公園が挙げられました。次いで「神社」、「龍野城」「山」、「揖保川などの河川」の順になっています。

市民、中学生共に、身近に触れ合える自然や、本市の歴史や文化を感じさせる場所が多く挙げられています。

本市には、市民が誇りに思える素晴らしい環境が身近に多くあり、まちの大きな魅力となっています。その魅力を再確認し、本市らしい歴史や文化と自然が調和した環境を、次世代に残していくことが求められています。

〈次世代に残したい本市の様々な環境〉



新宮東山公園



清流・揖保川の流れ



正條桜つつみ（揖保川せせらぎ公園）



世界の梅公園